

# 日本声楽発声学会 第115回例会

令和6年（2024年）11月24日（日）

9：55～16：30（受付9：30より）

東京藝術大学音楽学部

大講義室（5-109）・第6ホール

（JR上野駅公園口より徒歩10分）



上のQRコードを読み取り例会アンケートにご協力ください

（お願い）

- ①携帯電話等音の出るものは電源をお切りください。
- ②録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。（本学会では記録用として録音録画をしますがそれ以外は個人情報と著作権保護のため厳禁といたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります。）
- ③感染症予防に関しては、ご自身でご判断の上ご入場ください。

# 日本声楽発声学会第 115 回例会プログラム

総合司会：副会長兼事務局長 齊藤 祐

開会挨拶：9：55～10：00

副会長 池田京子

A. 研究発表：10：00～11：50（5-109 大講義室）

司会：事務局次長 森井佳子

1) 10：00～10：25

座長 理事 三枝英人

発表者：齊田晴仁 Saida, Haruhito（さいだ耳鼻咽喉科クリニック、ヴォイステック音声研究所、昭和大学耳鼻咽喉科及び日本大学芸術学部音楽科兼任講師）

発表題目：声道形態調節による音声の聴取実験結果（2023 年秋例会）の分析：声区指導の現状を考  
える

概 要：声区分類は未だに混乱している。M. Garcia による“声区とは同一の喉頭調節によって発  
声される同じ音色の音域”が通説で地声、裏声と区分、別に頭声や胸声という区分もある。  
音源フィルター理論から考えると前者は音源特性で後者は声道特性を表している。この組  
み合わせにより音色は変化し結果的に声区が判定される。昨年の聴取実験結果についても  
解説する。

10：25～10：30 質疑応答

2) 10：35～11：00

座長 理事 田中昌司

発表者：長塚 全 Nagatsuka, Zen（Zen Voice Factory 渋谷ボイストレーニングスタジオ代表）  
高野佐代子 Takano, Sayoko（金沢工業大学メディア情報学科准教授）

発表題目：声帯振動パターンと喉頭位置を調整した際の MRI による喉頭軟骨の計測

概 要：ボイストレーナー 2 名が声帯振動パターン 3 種類(Thick、Thin、Stiff)と喉頭位置 3 種類  
(High、Middle、Low)の合計 9 種類の発声について、磁気共鳴画像(MRI)で撮影し、喉頭軟  
骨の位置の計測を行った。結果、Thick の声帯振動パターンでは喉頭軟骨全体が前方に位  
置していた。Thin、Stiff へと声帯振動パターンを変化させていくにつれて、喉頭軟骨全  
体の後退が確認された。

11：00～11：05 質疑応答

3) 11:10~11:35

座長 理事 竹田数章

発表者: 三枝英人 Saigusa, Hideto (東京女子医科大学附属八千代医療センター-耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科)

発表題目: ヒトの舌尖の特殊性と運動制御について考える: 舌尖の比較解剖学的研究から

概要: ことばを生成、歌唱する、クラリネット吹奏時にタンギングをする舌はヒトのみである。舌尖でアイスクリームを舐める、似てはいるが獲物を求めるカメレオンやアリの舌と異なる、探索する、求める、味覚や食感を楽しむ舌でもある。一方、モグモグ・・・ガリッ!と誤って噛んでしまうのもヒトの舌尖のみである。従って、「のどから手が出る程欲しい」という単純な舌ではない。ヒト舌尖の特殊性と運動制御機構について検討する。

11:35~11:40 質疑応答

諸連絡: 11:40~11:50

齊藤 祐

昼食休憩 11:50~13:00

## B. パネルディスカッション 13:00~15:00 (5-109 大講義室)

座長: 竹田数章 (理事)

パネリスト: 上杉清仁 (理事)、近藤直子 (会員)、三縄みどり、吉田浩之 (理事)

テーマ: 歌唱における共鳴について

概要: 歌唱時の共鳴について、どのようなことが体内、共鳴器官、構音器官におきているか。

近藤氏には共鳴に関する Atem-Tonus-Ton (呼吸—筋緊張—音・声) 呼吸法のエクササイズを紹介していただき、そして吉田氏、三縄氏、上杉氏には、歌において声道や鼻道、共鳴器官・身体をどう響かせておられるか、その指導法やコツなどをお教えいただく。参加者にもこれらを実際に体験していただけたらと願っている。

1. 喉頭原音と声道共鳴から生じる言葉。舌の動きと口腔内の正しい母音形成と共鳴について。
2. 声道において、「ノドを広げる」とは。喉頭周辺や咽頭壁の状態を画像で見ていただく。
3. 口腔、開口と共鳴について。
4. 軟口蓋の使い方。軟口蓋を挙上した場合と下げている場合の違い。
5. 上咽頭の使い方 音をまわすこと (girare) について。
6. 鼻腔共鳴、副鼻腔共鳴、マスク (Maske/maschera) の共鳴について。
7. 頭部の共鳴について。
8. 体幹、胸壁、背骨、身体・体壁振動などについても寺垣氏の実験モデルを使い述べたい。
9. Freiburger Institut für Musikermmedizin の資料を使い、クラシック音楽、ポップス、ミュージカル発声時の身体の使い方の違いを身体内部の MRI 画像と共に供覧する。
10. 高い声と低い声の発声時における響きに関して。

**竹田数章** Takeda, Kazuaki 仙川耳鼻咽喉科院長。日本医科大学大学院博士課程卒業。医学博士。桐朋学園大学・洗足学園音楽大学音声生理学講師。文化庁能楽養成会（森田流笛方）研修終了。音声生理学を米山文明に、Atem-Tonus-Ton（呼吸—筋緊張・体の使い方—音・声）呼吸法をマリア・ヘッラー女史に師事。日本声楽発声学会理事。監訳書に『ヴォイス・ケア・ブック 声を使うすべての人のために』、『発声ビジュアルガイド』（音楽之友社刊）

**上杉清仁** Uesugi, Sumihito 高知県出身。松戸市在住。高知大学人文学部卒業。同大学院教育学専攻修了。東京藝術大学修士課程及び博士課程を修了し博士号（音楽）を取得。スイス政府奨学生としてバーゼル音楽院に留学し、G. テュルク、A. ショルのもとで研鑽を積む。柔らかい美声と多彩な表現力に定評があり、実力派歌手として活躍。また、発声解剖学にも造詣が深く、発声指導者としても不動の信頼を得ている。声楽アンサンブル『ラ・フォンテヴェルデ』メンバー。日本声楽発声学会理事。日本音声言語医学会会員。昭和音楽大学講師。

**近藤直子** Kondoh, Naoko 尚美音楽短大声乐科卒業。Hamburg 音楽院に留学。指揮法を高階正光氏に、声乐を T. Niensted、U. Wegner、発音学を H. Wangenheim 各氏に師事。『第九』『ミサ曲』『レクイエム』等、管弦楽付き合唱曲を多数指導。米山文明氏の下、呼吸から声を導く Atem-Tonus-Ton を Maria Höller、L. Fiorenza 各氏に師事、指導者資格取得。A-T-T を取り入れた合唱指導を行っている。足立区合唱連盟理事長。令和元年度足立区文化功労受賞。日本声楽発声学会正会員。

**三縄みどり** Minawa, Midori 東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。《ラ・ボエーム》《フィガロの結婚》《カルメン》《欲望という名の電車》他、数多くのオペラに主演。N響、都響、東響他、各地のオーケストラ、内外の著名な指揮者と共演。ソロリサイタルでは、毎回満席のファンを魅了した。FM リサイタルや「題名のない音楽会」「クラシック倶楽部」などに出演。CD「ひとりぼっちがたまらなかったら」「中田喜直歌曲集」「あなたへ」「うつくしいもの」をリリース。二期会、日本演奏連盟、横浜シティオペラ各会員。2019 年まで東京藝術大学で後進の指導にあたる。

**吉田浩之** Yoshida, Hiroyuki 国立音楽大学声乐科卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科（オペラ）修了。没後 200 年記念国際モーツァルト声乐コンクールソ本選入賞。文化庁派遣芸術家研修員としてローマに留学。新国立劇場等のオペラ公演、内外のアーティスト、主要オーケストラとの共演は枚挙に暇がない。ソロ CD「一粒の涙」「proprio」。東京藝術大学音楽学部声乐科教授。



©TAKUMI JUN

講師：森谷真理 Moriya, Mari

～演奏曲目～

ヘンデル：オペラ《アタランタ》より「いとしい森よ」  
オペラ《セルセ》より「オンブラ・マイ・フ」  
オペラ《アグリッピーナ》より「なんてすてきな喜び」  
オペラ《ジュリオ・チェーザレ》より「優しい眼差しよ」  
オペラ《サムソン》より「輝かしいセラフィムに」  
シャルパンティエ：オペラ《ルイーズ》より「その日から」  
プッチーニ：オペラ《つばめ》より「ドレッタの夢」

Sop. 森谷真理 武蔵野音楽大学、同大学院、ニューヨークのマネス音楽院修了。2006年にメトロポリタン歌劇場にて《魔笛》夜の女王役で大成功を収めたのをはじめ、リンツ州立歌劇場の専属歌手を務めるなど欧米で活躍。近年ではドレスデンのゼンパーオーパーで《蝶々夫人》主演にてデビューし、注目を集めた。2024/25シーズンはドイツのズールとライブツィヒにて、デニス・ラッセル・デイヴィス指揮 MDR 交響楽団とフィリップ・グラス「The Voyage」を共演予定。国内では、兵庫県立芸術文化センター《夏の夜の夢》、日生劇場《ランメルモールのルチア》、二期会《蝶々夫人》《サロメ》《ルル》の表題役、新国立劇場《ジュリオ・チェーザレ》、びわ湖ホール《リゴレット》《魔笛》《ラインの黄金》《ワルキューレ》《神々の黄昏》《ローエングリン》《ニュルンベルクのマイスタージンガー》《フィガロの結婚》《こうもり》《ばらの騎士》に連続出演し、高度な歌唱と深い音楽性、迫真の演技で聴衆を魅了した。コンサートレパートリーもバロックから近現代曲と幅広く、昨今ではプーランク《人間の声》が新聞各紙で高評された。名古屋音楽大学准教授。東京藝術大学講師。洗足学園音楽大学講師。

Pf. 多田聡子 東京藝術大学附属音楽高校を経て同大学器楽科ピアノ専攻卒業。宮内庁主催皇居桃華楽堂御前演奏会に出演。卒業と同時に同大学にて伴奏助手を務め、現在は非常勤講師として後進の指導にあたる。ソリストを支える共演者として特に声楽の分野で定評があり、第30回イタリア声楽コンクール表彰式では特別招聘審査員マルチェロ・アッパード氏よりピアニストとして異例の賛辞を受けた。

閉会挨拶 16:25~16:30

理事 鈴木慎一郎

表紙の例会アンケート QRコードを読み取り、アンケートにご協力ください。